

貿易投資相談ニュース

2025年6月 Vol.285

多摩信用金庫 海外事業支援部 住所：〒190-8681 東京都立川市緑町 3-4
<https://www.tamashin.jp/>



今月の見出し

1. 世界の主要ニュース
2. たましん公表外国為替相場
3. 【たましん駐在員レポート】～カンボジアを訪問して～



世界の主要ニュース

4月の新車販売台数 9.8%増 新エネルギー車の販売好調（中国）

中国の4月の輸出を含めた新車の販売台数は、EV-電気自動車などの「新エネルギー車」の販売が好調だったことから、去年の同じ月と比べて9.8%増えました。中国の自動車メーカーなどが加盟する「自動車工業協会」によると、4月の新車の販売台数は、輸出を含めて259万台で、去年の同じ月と比べて9.8%増えました。新車販売が増加するのは、3か月連続です。これは、政府が押し進める自動車の買い替え促進策の効

果で、EVなどの「新エネルギー車」の販売が、去年の同じ月と比べて44.2%のプラスと好調だったため、販売台数に占める新エネルギー車の割合は、47.3%となりました。また、ガソリン車も含めた輸出台数は、51万7000台となり、去年の同じ月と比べて2.6%増えました。ただし、米中の貿易摩擦による影響は依然として先行き不透明であり、今後の販売動向にどう影響するかが焦点となっています。

米雇用統計は市場予想を上回り労働市場は堅調さ保つ（米国）

米国労働省は5月に2025年4月の雇用統計を発表しました。トランプ政権による相互関税発表後の状況が一部反映された初の雇用統計となりましたが、雇用は引き続き堅調さを保っています。就業者数（前月差43万6,000人増）、失業者数（同8万2,000人増）、労働参加率（62.6%、前月から0.1ポイント上昇）を踏まえた失業率は4.2%（前月4.2%）となり、市場予想（4.2%）と一致しました。非農業部門の雇用者数の伸びは17万7,000人増となり、市場予想（13万8,000人増）

を大きく上回りました。3か月平均では15万5,000人増で、なお堅調さを保っているといえます。平均時給は36.1ドル（前月36ドル）で、前月比0.2%増（前月0.3%増）、前年同月比3.8%増（前月3.8%増）でした。業種別にみると、情報業や金融業など賃金水準が高い部門での伸びが目立っており、4月の雇用情勢は、3月に続き比較的堅調さを保っていることが確認されました。日本にとって米国は中国に次いで世界2位の貿易相手国であり、米国経済の影響は今後も注視されています。

2025年の訪日外国人数過去最速で累計1,000万人を突破（日本）

JNTO（日本政府観光局）が発表した訪日外客数（2025年3月推計値）によると、3月の訪日外国人数は3,497,600人で、前年同月比では13.5%増となりました。3月として過去最高であった2024年の3,081,781人を大きく上回り、同月過去最高を記録しました。また3月までの累計では10,537,300人となり、過去最速で1,000万人を突破しました。春の桜シーズンに入り、多くの市場で訪日需要が高まったこ

と、東南アジアの一部の市場や中東地域ではイスラム教の断食明け休暇に合わせて海外旅行需要が増加したこと等が押し上げ要因となりました。東アジアでは中国、東南アジアではインドネシア、欧米豪では米国を中心に増加しています。最近では都心部や有名な観光地のみならず、地方に足を運ぶ訪日外国人も増加しており、今後もインバウンド需要をターゲットとしたビジネスが期待されています。

たましん公表外国為替相場

（2025年4月1日～2025年5月7日、TTSレート、単位：円）

日付	4/1	4/2	4/3	4/4	4/7	4/8	4/9	4/10	4/11	4/14	4/15	4/16	4/17
米ドル	150.82	150.84	148.83	147.03	146.78	148.77	146.38	147.91	144.54	144.23	144.64	143.93	143.53
ユーロ	163.69	163.20	162.61	162.99	161.35	163.27	161.47	162.89	163.78	164.11	164.16	163.18	163.55
日付	4/18	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/28	4/30	5/1	5/2	5/7	最安値	最高値
米ドル	143.46	142.24	141.96	143.10	143.96	144.11	144.66	143.57	144.06	146.99	144.03	141.96	150.84
ユーロ	163.45	163.46	163.38	163.38	163.64	163.98	164.67	163.63	163.46	166.14	163.71	161.35	166.14

最新の外国為替相場はたましんホームページをご確認ください。（https://www.web-tamashin.jp/ex_rate/）



【たましん駐在員レポート】

～カンボジアを訪問して～

たましんでは2024年に海外トレーニーを行いました。第7弾となる今回はカンボジアの基本情報や最新の経済情勢等の調査を行い、筆者の視点でご紹介いたします。



基本情報

カンボジアの正式名称は「カンボジア王国」です。面積は約18万km²、人口は約17百万人、平均年齢は24歳と若い国として知られています。自国通貨はリエル（ただし、主に流通している通貨は米ドルです。）、公用語はクメール語、宗教については仏教が中心です。

カンボジアの特徴

カンボジアの特徴として、こちらでは2つ紹介いたします。まずは、平均年齢が24歳と非常に若い国であるという点です。要因としては1975年-1979年のポル・ポト政権の時代に起きた自国民の大虐殺の影響が挙げられ、40代以上の人口が極端に少ないです。それまで東南アジアの中でも経済発展が期待されていた国ではありますが、この事件をきっかけに大きく出遅れてしまいました。2点目は首都であるプノンペンでは水道水が飲めるという点です。日本のODAを基に北九州市水道局とJICAの事業により、プノンペンでは蛇口から直接飲める水質が確保されました。その成功から現地では「プノンペンの奇跡」と表現されており、東南アジアの中でも水道水が直接飲めるのはシンガポールのみであり、この事実はあまり知られていません。

最近の経済について

カンボジアの2023年実質GDP成長率は5%であり、堅調に成長しています。主な産業は農業・製造業（縫製品等）・不動産業・観光業であり、各分野比較的順調であるといえます。ただし、不動産建設についてはこれまで中国からの投資を中心に建設ラッシュでありましたが、中国経済の低迷に伴い建設途中で止まっている建物も多く見られます。カンボジアは他のASEAN諸国と比較しても人口が少なく、市場規模としても小さいですが、タイプラスワン・ベトナムプラスワンといった労働集約型企業の製造拠点として注目されています。SEZと呼ばれる経済特区エリアがあり、日系企業も多く集積しています。カンボジアへの進出メリットとしては企業にとって若い労働力を確保しやすい点が挙げられます。カンボジア人は手先が器用という特徴があり、日系製造企業が多い理由の一つでもあります。

カンボジア国内の消費について、日本産品はカンボジア国内でも人気があり、プノンペンにはイオンモールが3店舗を展開しています。中でも2023年に開店した3号店はASEANの中でも最大規模であります。日本の食品や生活雑貨の取り扱いも多く、カンボジア国民にも日本の文化が親しまれています。国民感情としても左記に触れた日本のODAによる支援に好感を持っている人も多いことから、比較的親日国であるといえます。

カンボジアは歴史的背景から他国の影響を受けて成長してきており、独特な雰囲気を感じられます。この機会にぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。



<プノンペン・イオンモール>

海外事業支援部 田中

本ニュースは情報提供のみを目的としています。

施策実施等に関する最終決定は、ご自身で判断されるようお願い致します。また、これらの情報は当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて作成されていますが、その正当性・完全性につきましては当金庫が保証するものではありませんのでご了承ください。

本ニュースのデジタル版はこちら

